

## ▼トレアキシン点滴静注用 [注]

- 【重要度】 【一般製剤名】 ベンダムスチン塩酸塩 Bendamustine Hydrochloride 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [アルキル化剤]
- 【単位】 ▼100mg/V
- 【常用量】 120mg/m<sup>2</sup> を 1 日 1 回 2 日間連投し, 19 日間休薬を 1 サイクルとして投与を繰り返す
- 【用法】 1 時間かけて点滴静注
- 【透析患者への投与方法】 MM に対する BPV 療法は腎機能によらず効果があり忍容性がある (Ponisch W, et al: J Cancer Res Clin Oncol 140: 1947-56, 2014 PMID: 24942335)
- 【PD】 PD 患者に適用した症例 (Shoji J, et al: BMJ Case Rep 2013 PMID: 23645657)
- 【保存期 CKD 患者への投与方法】 腎障害時にも血中濃度は上昇しないと思われる (Dubbelman AC, et al: Drugs R D 13: 17-28, 2013 PMID: 23322528, Owen JS, et al: Cancer Chemother Pharmacol 66: 1039-49, 2010 PMID: 20140617)
- 【その他の報告】 MM に対する BPV 療法は腎機能によらず効果・忍容性がある (Ponisch W, et al: J Cancer Res Clin Oncol 140: 1947-56, 2014 PMID: 24942335) 再発 MM の軽鎖による腎不全を合併した例に対して BPV 療法は効果・忍容性がある Ponisch W, et al: J Cancer Res Clin Oncol 139: 1937-46, 2013 PMID: 24046251)
- 【特徴】 アルキル化剤のナイトロジェンマスタードと代謝拮抗剤であるプリンアナログ様の化学構造を併せ持つ。
- 【主な副作用・毒性】 骨髄抑制, 感染症, 間質性肺炎, 腫瘍崩壊症候群, 皮膚障害, ショック, アナフィラキシー, 肝機能障害, 消化器症状, 発熱, 倦怠感, 味覚異常など多数
- 【安全性に関する情報】 Cmax は悪心の発現に有意に関連 (Owen JS, et al: Cancer Chemother Pharmacol 66: 1039-49, 2010) 倦怠感と心毒性が DLT (Rasschaert M, et al: Anticancer Drugs 18: 587-95, 2007)
- 【F】 57% [25~94%] [po] (Preiss R, et al: Pharmazie 40: 782-4, 1985)
- 【代謝】 グルタチオン抱合, システイン抱合, メルカプトソール酸抱合の代謝経路を経て代謝 (1) 主に加水分解されるが, 主要代謝物である M3, M4 [未変化体に対する AUC は数%と小さい] は主として CYP1A2 により生成 (1) M3 の活性は未変化体の 50~100%, M4 の活性は未変化体の 20%以下 (1) ラットとヒトの代謝は類似 (Dubbelman AC, et al: Drug Metab Dispos 40: 1297-307, 2012 PMID: 22492615)
- 【排泄】 尿中未変化体排泄率 1.6~3.7% [iv, 24hr まで], 代謝物 M3 と M4 として 0.5%未満 (1) 尿中回収率 36.5% [ラット], 22.2% [イヌ] (1) 尿中未変化体排泄率 5%未満, 尿中に約 50%, 糞便中に約 25%が回収 [iv] (Dubbelman AC, et al: Drugs R D 13: 17-28, 2013 PMID: 23322528)
- 【CL】 20~25L/hr [iv] (1) 528.9mL/min [iv] (Preiss R, et al: Pharmazie 40: 782-4, 1985) 287.8mL/min/m<sup>2</sup> (Rasschaert M, et al: Anticancer Drugs 18: 587-95, 2007 PMID: 17414628)
- 【t1/2】 0.47hr (1) 40min (Owen JS, et al: Cancer Chemother Pharmacol 66: 1039-49, 2010 PMID: 20140617) M3, M4 の t1/2 は 1hr 未満 (Ogura M, et al: Cancer Sci 101: 2054-8, 2010 PMID: 20594195)
- 【蛋白結合率】 94~96% [Alb に 80~92%] (1)
- 【Vd】 15~17L/man [iv] (1) Vc=11.15L/man, Vss=20.51L/man [iv] (Preiss R, et al: Pharmazie 40: 782-4, 1985)
- 【MW】 394.72
- 【透析性】 資料なし (1) 蛋白結合率が高く, 除去されにくいと思われる (1)
- 【薬物動態】 3 相性に消失 (Owen JS, et al: Cancer Chemother Pharmacol 66: 1039-49, 2010) 反復投与でも蓄積性はない (Ogura M, et al: Cancer Sci 102: 1687-92, 2011)
- 【O/W 係数】 資料なし (1)
- 【相互作用】 リツキシマブとの相互作用を認めない (Darwish M, et al: Cancer Chemother Pharmacol 73: 1119-27, 2014)
- 【更新日】 20220623

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。